



翔

2014 August No.229

百万石蝶談会

金沢市寺津町でヘリグロチャバネセセリを採集

浅 野 直 樹

県道207号線倉谷土清水線は金沢市二又新町にある犀川ダムが起点となる県道であるが、現在起点から寺津間が年間通して通行止めとなっているため実質的な起点は今のところ金沢市寺津町となっている。

犀川ダム右岸にはヒメキマダラセセリが生息していることが知られている。そこで2014年7月2日に犀川ダムから下流約5kmにある上寺津発電所から上流に向かって徒歩約30分の区間のヒメキマダラセセリ調査を行った。クズの葉上に静止している小型のセセリを採集し持ち帰ったところ、これがヘリグロチャバネセセリであることが判明した。

石川県におけるヘリグロチャバネセセリの分布は極めて限られており、そのほとんどは手取川上流の尾添川流域で確認されている。寺津町のような低標高地（標高約200m）でのヘリグロチャバネセセリの発見は、石川県では特記に値すると思われる。

最後に、貴重なデータをいただいた細沼 宏氏と吉村匡平氏に、感謝申し上げる。

2014年7月2日	石川県金沢市寺津町	ヘリグロチャバネセセリ	1頭	浅野直樹
2014年7月6日	石川県金沢市寺津町	ヘリグロチャバネセセリ	2頭	吉村匡平
2014年7月8日	石川県金沢市寺津町	ヘリグロチャバネセセリ	2頭	浅野直樹
2014年7月8日	石川県金沢市寺津町	ヘリグロチャバネセセリ	2頭	細沼 宏
2014年7月9日	石川県金沢市寺津町	ヘリグロチャバネセセリ	1頭	細沼 宏
2014年7月12日	石川県金沢市寺津町	ヘリグロチャバネセセリ	1頭	浅野直樹
2014年7月12日	石川県金沢市寺津町	ヘリグロチャバネセセリ	1頭	細沼 宏



《あさの なおき 〒920-0955 金沢市土清水1-95》

好観察地にヘリグロチャバネセセリが仲間入り

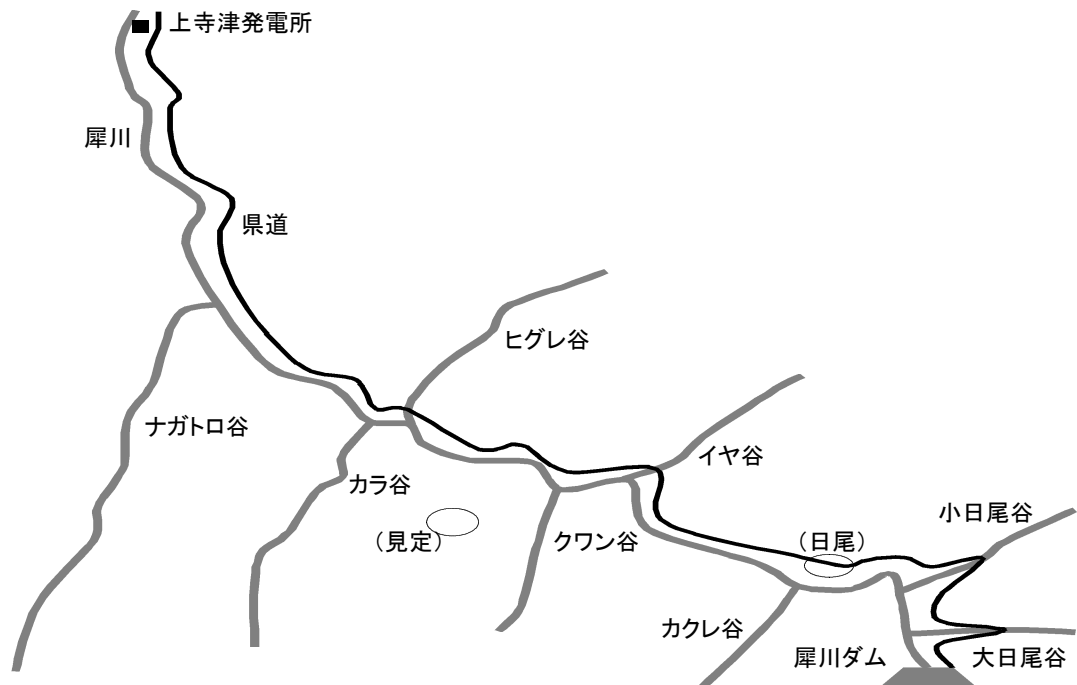
松 井 正 人

石川県金沢市寺津町の犀川河畔にある上寺津発電所付近で、これまで白山市の旧吉野谷村や旧尾口村、旧白峰村でしか観察されていなかった稀少なヘリグロチャバネセセリが採集された（浅野、2014）。

石川県のヘリグロチャバネセセリは、白山市瀬波より南部で観察されている。そのほとんどは手取川支流の尾添川流域で観察されており、7月中旬から8月にかけて、溪流沿いのわずかな草地を飛翔し、オカトラノオやヒメジョオンなどの花を訪れているものが観察されている。

上寺津発電所のある標高180m付近から犀川ダム直下の標高290m付近に至る延長約5kmはV字渓谷で、ウラジログシの大木が散見される豊かな緑に包まれている。右岸には犀川ダムまで舗装された県道が有るものの、一般車は1年中通行止めの状態で良い環境が保たれている。

この区域は、1978年までボツリボツリとクロシジミが採集されているほか、数年に一度は越冬したクジャクチョウが見付き、低標高地で有りながら、カラスシジミやシータテハ、ヒメキマダラセセリやコキマダラセセリなども見られる優れた観察地になっている。



《 参考文献 》

浅野直樹（2014）金沢市寺津町でヘリグロチャバネセセリを採集。翔(229):1.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

白山市一里野スキー場でエルタテハを採集

吉 村 匡 平

一里野スキー場の標高800m付近の路上で、エルタテハの成虫を採集したので報告する。道路のコンクリート面を何度も行ったり来たりする蝶がいて何気なく網に入れたところ、羽化したばかりと思われるエルタテハであった。

周辺では2013年3月に越冬個体が採集されており（矢田、2013）、付近で発生している可能性は高いと思われる。

2014年6月28日 石川県白山市一里野スキー場 エルタテハ 1頭採集 吉村匡平



《 参考文献 》

矢田新平（2013）石川県白山市でエルタテハ越冬個体を採集．翔(222):1-2.

《よしむら きょうへい 〒920-0965 金沢市笠舞2丁目3-3》

白山市一里野スキー場上部でエルタテハ発生の可能性

松 井 正 人

石川県白山市の一里野スキー場ゴンドラリフト山頂駅から、三角点1214m（檜倉）に続く加賀禅定道の1100m近くで、エルタテハを採集したので報告する。

2014年7月6日 白山市一里野加賀禅定道（標高1100m）エルタテハ 2頭採集 松井正人

石川県のエルタテハは少なく、成虫がわずかに採集されているに過ぎないが、吉村匡平氏は、2014年6月28日に一里野スキー場でエルタテハの新鮮個体を採集され、周辺での発生を示唆されていた（吉村、2014）。吉村氏が採集された周辺から、林道沿いにウダイカンバが多数見られ、発生の可能性は十分有ると確信していたところ、コンクリートで固められた林道の法面にエルタテハが飛来しているのを観察した。エルタテハは法面上を少し歩いては飛び立ち、少し離れた場所で同様の行動を行ったのち、再び最初の場所に戻ることを何度か繰り返し、1頭を採集すると次の個体が飛来した。

吉村氏が採集された個体を含め3個体はともに新鮮で、食樹と成りうるウダイカンバもあり、採集時期が6月末から7月上旬であることから、吉村氏が示唆されたとおり周辺での発生は十分考えられ、食樹の解明が期待される。



加賀禅定道の100m程手前にあるエルタテハが飛来した林道のコンクリート法面

《参考文献》

吉村匡平（2014）白山市一里野スキー場でエルタテハ採集，翔(229):3.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

白山市白峰スキー場でツマグロヒョウモンを観察

松 井 正 人

石川県白山市白峰スキー場ゲレンデで、たくさんのウラギンヒョウモンと一緒にツマグロヒョウモンの♀を観察した。

2014年 7 月 6 日 白山市白峰スキー場ゲレンデ（標高600m） 1 ♀目撃 松井正人

活発に飛ぶウラギンヒョウモンとは違って緩やかに飛翔し、林縁に有る地上 2 m 程の見晴らしの良い葉上に止まると、羽を大きく広げてくつろいでいるようだった。しかし、10m 以上は離れていると思われる上空を鳥が通過するたび、敏感に反応して羽を素早く閉じたかと思えば、直ぐにゆっくりと広げて元通りになった。

かつては稀に観察されていた南国の蝶も、今では雪深い地であっても 7 月に入ると観察されるようになった。



ゲレンデのオカトラノオやアカツメクサにウラギンヒョウモンは多く、ツマグロヒョウモンは林縁部を緩やかに飛翔し、ゲレンデに張り出した枝の葉に止まった。建物はヤングバレーゲレンデの「すぎっ子ハウス」。

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

アサギマダラと魔法の言葉

五 萌 み どり

子どもたちと一緒にヒマワリの観察をしているとき、隣のフジバカマを見たら、ひらりアサギが見えた。急いで玄関からネットを取り出して振り回したが、取り逃がしてしまった。3頭もいたのにがっかり。フジバカマにはアサギを呼び寄せる魔法が掛かっていると聞いていたが、本当に飛んできてびっくりしてしまった。翌日は、かげ遊びをしていたときに子どもが見つke、あわててネットを持ってきたのに、子どもたちが騒ぐので、すぐに上にあがってしまったが、やっぱりフジバカマには魔法が掛かっていた。

そういえば、子どもたちがアサギを見つけても、なかなか捕まえられるのに、ふわりと舞い降りてきた1頭を私が難なく捕まえると、「先生には、魔法が掛かっているね」と子どもに言われたことがある。「どんな魔法？」と訪ねると、「アサギマダラがつかまえられる魔法」と、とっても素敵な言葉をもらい、一日うれしかったのを思い出した。

アサギにマーキングするときは、誰もが何処かで見つかってほしいと願っている。魔法が掛けられたら、どんなに素敵だろう。

最近、魔法を掛ける達人がいることが分かってきた。マーキングの数が少ないのに再捕獲される数が多いので気になっていたが、やはり魔法だった。私もアサギを飛ばすときに、「喜界島まで飛んでいけ」とか「台湾まで飛んでいけ」と、声に出したり念じたりしていたが、魔法は掛からなかった。でも、掛かっていたかもしれない気が付いた。アサギは、喜界島や台湾まで飛んでいるのに、見つかっていないだけなのだと。そこで、飛ばすときの魔法の言葉を考えた。「喜界島で見つかれ」「台湾で見つかれ」。早く魔法を試してみたい。シーズンよ早く来い。

表紙のむし - ヘリグロチャバネセセリ -

昨年の秋から母親の介護が始まったことから遠出はできなくなったので、今年は上寺津に通うことにしようと思いました。自宅から上寺津まで車で15~20分で行くことができるので、6月から往復2時間足らずの上寺津通いが始まりました。残念ながら目的のオオミスジの発見には至っていませんが、7月2日には「犀川ダムまで行かなくてもヒメキマダラセセリが採れた！」と翌日の例会で報告しました。それがなんと、後日ヘリグロチャバネセセリであることが判明しました。それが極めて珍しい蝶であると聞かせられた今でも、心躍ることはなぜかありません。自分は知っています。手が震える時は、金沢市でオオミスジかクロシジミを網に入れたときだと。

浅野直樹

石川県白山市でヒメシジミの幼虫を観察

松 井 正 人

白山市一里野スキー場の標高800m付近で、ヒメシジミの終齢幼虫を観察したので報告する。報告にあたり、ヒメシジミが食べていた植物を同定していただいた金沢大学植物園の木下栄一郎氏にお礼申し上げる。

石川県のヒメシジミは、アサマシジミよりも遙かに稀少な存在で、成虫の観察例は少なく、幼虫はハギの仲間から採集された1例しか知られていなかった（勝海、1988）が、2013年に一里野スキー場の広い範囲（標高750m～1000m）で多数の成虫が観察されたことから、2014年に同地で幼虫調査を行った。

調査地はスキー場のゲレンデで、各種のイネ科植物やミヤコグサなどの緑化植物が繁茂しており、定期的な草刈りもなされているようで、周囲とは異なった植生になっていた。

ヒメシジミの食性は広く、調査地には食草となる植物が多かったため、ハギの仲間とヨモギの仲間を的を絞り、標高800m付近で調べたところ、イタチハギから1頭、ヨモギまたはオオヨモギから3頭の終齢幼虫を観察した。幼虫はなかなか見つからなかったが、発見のカギとなったのは動きのあるアリで、アリを探すことでヒメシジミの幼虫を見付けることができた。

2014年5月25日 白山市一里野スキー場(標高800m) ヒメシジミ終齢4頭採集 松井正人

《 参考文献 》

勝海雅夫（1988）蛇谷でヒメシジミの幼虫を採集．翔(74):1.



一里野スキー場標高800m付近：草地は各種イネ科植物やミヤコグサなどの緑化植物が繁茂しているゲレンデ。写真右手はスキーヤー転落防止用ネット。



2014年5月25日
一里野スキー場
イタチハギを食す
るヒメシジミ



2014年5月25日
一里野スキー場
ヨモギ または
オオヨモギを食す
るヒメシジミ



2014年5月25日
一里野スキー場
ヨモギ または
オオヨモギを食す
るヒメシジミ

会員の動き・しゃばの動き

■マイマイガ大発生

どこぞでは今年もアカシジミが大発生と聞くが、こちらはマイマイガが大発生。一里野姫を探すと、眼に付くのはこの幼虫ばかりで、かぶれないと安心していたら、見事にかぶれてしまった。一里野姫の幼虫も見つかったので、かゆいのはガマンガマン。

■裏面の模様はゼフ

カラスシジミの成虫採集に同行した。普通の柄でヒメジョオン等の花に来たところをなんて考えていたが、長竿を延ばして枝先をたたき、飛び出したところをと、まるでゼフの採集。今更ながらに気付いたが、裏面の白帯はゼフそっくり。

■一里野姫がお出まし

誰もが初お目見えを狙っていたが、6月15日、山岸氏にお目もじが叶った。ゴンドラ乗り場のゲレンデを西側から調べ、草の繁茂に難儀したが、一番東までくると刈り込まれていて、たくさん飛んでいた。

■アサヒ型ヒメシジミ

ヒメシジミに熱を上げるH氏は、新潟まで北上してしまったI氏と連れだって、日本列島を更に北上。当たり年なのか毎年多いのか、湧き出てくるその数に圧倒されるも、益々熱は上がるのだった。

■3頭目のヒメシジミ

石川で多数観察され出した今がチャンスと、福井姫調査が動き出した。Aチームは過去の記録からポイントを探り、Bチームはスキー場にポイントを絞ったが、そんなに甘くは無かった。

■新しい採集地

6月28日一里野スキー場でエルタテハの新成虫が採集された。昨年は、1km程離れた場所で3月に越冬個体が採集されており、周辺に発生地が有りそうだ。各種ヒョウモンが飛び交いヒメシジミが乱舞する一里野スキー場、新しい採集地になりそうだ。

■益々元気な医王山の主

ゼフシーズンに馬の背へ行けば必ず会えた主。昨年は姿が見られず、寂しい思いをした同好者も多かったようだが、今年は例年通り長竿を振り回し、健在ぶりを見せつけていた。

■クロシジミは見つかるか

金沢市のクロシジミと言えば犀川溪谷。寺津からダムにかけての県道で採集され、30年以上も観察されていないが、かすかな望みを抱いて今でも通う同好者がいる。この調査で、思いもよらない稀種が見つかり、今後の調査が益々楽しくなった。

■時代は変わった

一里野で2頭目のエルの飛来を林道に腰を下ろしてのんびり待っていると、そこかしこに止まるヒメが見えてきた。どちらも見つからない種の代表だったのに。

■イケメンだとしても引いてしまう趣味

働く女子のアンケート結果がインターネットに公表され、1位「アニメ」2位「美少女フィギュア」ときて、8位に「昆虫収集」がランクイン。これに、虫ガールや昆虫系男子を絡めて、高田兼太氏が伊丹市昆虫館研究報告に紹介している。

■医王山のヒサマツミドリ

2002年から成虫が採集されている医王山のヒサマツ、その後は毎年細々と採れていたが、今年は多そうだ。

■ 例会の記録 ■

6月4日（水）浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回のトピックは、一里野姫。松井氏が、5月25日に終齢幼虫を観察。おびただしい数の成虫が観察された割に、幼虫はなかなか見つからなかった。成虫は、6月中旬頃からの発生が予想され、ゲレンデの標高差を利用すれば、時期が多少ずれても綺麗な個体が観察できる。

その他の話題は、金沢市で幼虫越冬したアサギ、自費出版「石川の蝶」、カラスの幼虫からハチが羽脱、志賀町のジャコウ、シルビアはまだか、町内ドブ掃除でシオカラのヤゴ、白山スーパー林道を歩く会、虫に超詳しいチャリおばさん、などなど。

参加は、福富、浅地、吉村、山岸、竹谷、田辺、浅野、池田、松井、大宮、井村の11人。

■ 例会の記録 ■

7月3日（木）浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回のトピックは、吉村匡平氏がヒメシジミを探しに行った一里野で採集したエルタテハ。ビカビカの新成虫で、周辺で発生した可能性が高く、採集地の標高から食樹は、オヒョウかうダイカンバ。去年は周辺で越冬個体も採集されており、この先、幼虫の観察、食樹の解明が期待される。

その他の話題は、オオきなミスジ、上寺津の小さなセセリ、犀鶴姫は見つからない、クロシジミは飛んでるのに福井姫は見つからない、キゴ山のウラギンスジ、国見平と御所のオオキンカメ、などなど。

参加は、吉村、竹谷、松井、細沼、大宮、浅地、浅野、長田、山岸の9人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

浅野直樹：金沢市寺津町でヘリグロチャバネセセリを採集	1
松井正人：好観察地にヘリグロチャバネセセリが仲間入り	2
吉村匡平：白山市一里野スキー場でエルタテハを採集	3
松井正人：白山市一里野スキー場上部でエルタテハ発生の可能性	4
松井正人：白山市白峰スキー場でツマグロヒョウモンを観察	5
五萌みどり：アサギマダラと魔法の言葉	6
松井正人：石川県白山市でヒメシジミの幼虫を観察	7
編集部：会員の動き・しゃばの動き	9

翔

229号

Tobu 2014年8月10日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>

☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所

